

平成29(2017)年「正覚寺報」8月号

ご案内

親鸞聖人七百五十回大遠忌実行委員会

8月6日(日)19時～、第6回実行委員会を営んで戴きます。大変ご苦労様です。

ただいま、お稚児さんの参加募集を続けております。五十年に一度の最も大切な御勝縁にお会い戴けるよう、“外孫さん”のご縁も含め、“北小松地域外”にも、わが事としてお声をおかけ戴きたくお願い申し上げたいのです。

歡喜会(お盆の集い)&百回忌

8月20日(日)午前10時～(お客僧)平野正信様

恒例の歡喜会には、今年も平野正信様にご出講戴きます。三年前に大阪豊中市にご自坊をお開きになりました。4月29日の花祭りで御世話下さったともしえの皆様、6月17日の常例布教にご出講下さった瓜生様ともお顔なじみでいらっしゃるお客僧様です。数ある正覚寺のご法座の中で最もお若いのに最も落ち着いた御法話を説いてお聞かせ下さいます。

皆様にはどうぞお誘い合わせてお参り下さるようお願い申し上げます。

親鸞聖人七百五十回大遠忌法要のご準備を進めて戴いております。

役員の皆様には、暑い夏の最中、着々にご準備を進めて戴いております。

因みに「燭台の芯のゆがみはどうしたものか」との御相談に対しては、Y 総代が腕の覚えによりを掛け、みんなが唾然とする間に、ゆがみを直し、磨き上げ、修復外注依頼の懸念を吹き飛ばして戴きました。

次回、八月の実行委員会で確認でき次第、ご法要にご出席戴く他院の皆様へのご案内状を発信して戴く手筈であります。

佐藤清利ブラジリア本願寺主管の力作拝読

国際センターで入手した師の”自利利他“という力作を頂戴しました。師は1942年生れの三世。国際的歴史的視野の広さに驚愕を覚えました。

今日、南米教団最大の年間行事「南米仏教婦人大会」は、97年を最後に参加者数が1千人を切り、今や500人を切ろうとしている。予て警鐘が鳴らされてきた教団の危機が毎日に現実味を増しつつある。佐藤師は、「リスク」は、開教実践改革刷新の「機会」を含み、好機と捉えたいと力強いお言葉を発信して頂いています。ご労作 p9 には「キリスト教を宗教的背景とする人々に布教伝道、真宗開教を意識的、組織的に行うべき局面にある」とご指摘であります。

八月は正覚寺でも歡喜会を営みますが、ブラジリア本願寺では毎年盂蘭盆会が営まれ、当初の二晩から十晩に延長され、「仏教寺院のバザー」として公式暦に登録され、日系・非日系の垣根を越えて太鼓の響きに合わせた盆踊り、J-Popが300人のボランティアに支えられ、8月の全週末で7万人近くの来場があるとのこと。

毎週土日は、『読経メディテーション』と称して全員でお経を称え、親鸞聖人のお言葉のエッセンスが来場者の胸に信心安穩の道として刻み込まれる。ブラジル人の音楽感覚は素晴らしく、見事なお念仏の合唱が盛り上がる。

年中毎晩のように仏教講座が設けられ、生活信条、四諦八正道や歎異抄を通じて12時間単位で10人程度が車座になって話し合い、毎年百人程度の卒業生を送り出している。

しばしばメディアにインタビューを受け「貴方は仏教者としてこの事件にどのような立場を取るか」という質問を受けるのだという。合掌。